

天国と地獄 (High and Low)

観賞日 2023年3月13日 上映時間 143分

【概要】

制作 1963年

監督 黒澤明

原作 エド・マクベイン (『キングの身代金』)

脚本 黒澤明、菊島隆三、久板栄三郎、小国英雄

音楽 佐藤勝

撮影 中井朝一、斉藤孝雄

出演 三船敏郎 (権藤金吾)、仲代達矢 (戸倉警部)、香川京子 (権藤怜子)、山崎努 (竹内銀次郎)
三橋達也 (河西)、石山健次郎 (田口部長刑事)、佐田豊 (青木)、志村喬 (捜査本部長)



【あらすじ】

1960年代前半、横浜浅間台の豪邸。ナショナル・シューズの経営権を巡り争う4人の会社幹部。そこに1本の電話が。屋敷の主である権藤金吾の長男純を誘拐したと告げる犯人。しかし純は屋敷にいた。犯人は間違って運転手の子供の進一を誘拐してしまったのだ。用意した資金を他人の子の身代金支払いのために使うか、夢を実現するために使うか揺れ動く権藤。結局、権藤は犯人の要求に応じ、進一は無事身柄を確保される。

後半は一転して、犯人検挙に突き進む警察と犯人の攻防が中心になる。マスコミの協力を得て憎むべき犯人に、より重い刑を与えようと動く県警。地道な捜査が実り、漸く犯人の目星をつけ、伊勢佐木町、黄金町、腰越へと犯人を追い詰める。果たして、県警は犯人を死刑判決まで追い込めることができるのか？

地元横浜を舞台に、警察と犯人の息詰まる攻防を描く黒澤サスペンスの傑作。

【解説】

■ポイント

●地元横浜を舞台にした土地勘満載の作品

浅間台、横浜市大浦舟町病院、江ノ島、伊勢佐木町、吉田橋、黄金町、腰越等の馴染みの場所のオンパレード。

●作品の影響力

- ・身代金目的の誘拐犯の重罪化 (一本の映画作品が法律を変えた)
- ・模倣犯の出現

■見どころ

●ベストの俳優陣

三船、志村、仲代の黒澤組常連に山崎努が加わる。

●ストーリー展開の面白さ

犯人が誘拐する子供を取り違えるというひねり。同時に経営権取得のために用意された5千万円の存在。子供の命か夢の実現か選択を迫られる権藤。

●モノクロ映画の中で鞆の存在を高らかに告げるピンク色の煙

●当時、京急高架線下の黄金町近辺は麻薬の巣窟。異様に光るサングラスと麻薬常習者役菅井きん (当時37歳) の演技

●ラストシーンの山崎努の演技は映画史に残る名演技